

鎖国下の外国人と友好親善

江戸期の二人のヨーロッパ人をめぐって

ヨーロッパ人最初の渡道

アンジェリス神父

元和四年（一六一八）キリスト教イエズス会の宣教師ジェロニモ・デ・アンジェリス（イタリア・シシリ島出身）がひどい嵐のため上ノ国の天の川河口付近に上陸し、陸路松前に向かった。ヨーロッパ人最初の北海道上陸である。

松前藩主は「天下（将軍）は日本から神父たちを追い払ったが、松前は日本ではないのだから、神父が松前に来ることは大事ない」といい、希望があれば、対面することも約束し、村役人に饗応を命じたという。

三年後、アンジェリスは「蝦夷地図」を作製しているが、上陸した地点にツガ（Tuga）と書き込んである。

キリシタンへの迫害が激しくなった元和九年（一六二三）アンジェリスは江戸で火刑に処され、刑場の露と消えた。キリシタン門徒への弾圧は蝦夷地にも及び、寛永十七年（一六四〇）本町石崎で六名の信者が処刑されている。

●写真はアンジェリスの蝦夷地図の書き入れ記事

Map Sin. 39

木ノ子で再捕縛されたロシア人

ゴロウニン艦長

文化八年（一八一二）国後島で捕えられたロシアディアナ号の艦長ワシリー・ゴロウニン少佐らが、松前福山の牢獄から逃亡して、山野を彷徨、約一週間後、本町木ノ子で再び捕えられ、松前に移送された。

三年後、ゴロウニンは、高田屋嘉兵衛らの助力を得て、ロシアの首都ペテルブルグに帰ることができた。

帰国後「日本幽囚記」をあらわしたゴロウニンは松前に移送される途次の様子を次のように述懐している。

「私たちが村や集落を通るとき、住民が私たちを見物するために集まってきたが、誰一人とくに凌辱する者もなく、嘲笑するような者もいなかった。同情の眼をもって眺めていた。婦人たちの中には私たちに飲み物や食物を差し出し、涙を流している者もあった」と。